



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

エジプトの魅力

日本から約1万キロメートルも離れた場所に位置し、2010年からのアラブの春以降、何かと物騒なイメージを持たれがちなエジプトですが、いざ住んでみると実に多種多様な面があり、意外にも親しみを感じることも多い国です。

天然芝の敷かれた立派なゴルフ場や、世界一の透明度を誇るともいわれるダイビングスポットが数多くあります。また、イスラム教国でありながらビールやワインを自国生産するなど、他文化・諸外国との共存共栄を目指す寛容さを併せ持ち、われわれ外国人が日常生活で窮屈さ

を感じることはほとんどありません。

仕事をしている上では、「なかなか約束を守らない、極めて大ざっぱで、気が付いたら帰ってしまっている(仕事は何も片付いていないのに)ようなことが日常茶飯事」のエジプト人に対し、いら立ちが募ることもあります。

それでも、冗談好きで人懐っこく、チャーミングな彼らに助けられることがあるのもまた事実で、そんな「エジブシャン」もこの国の魅力の一つだと私は思っています。アラブ世界随一の大国は、意外にも「遠くて近い」、そんな国です。

藤原 惇(2009年商学)

会員からのメッセージ

カイロに住んで驚かされたことは、天候の良さや人々のイスラム教信仰の強さでした。ほぼ毎日が快晴の天気は、梅雨や台風に悩まされる日本人にとっては天国です。しかもナイル川の水は豊富ですから、最古の文明がここに花開いた理由が即座に分かりました。夏は酷暑ですが、一年を通して暮らしやすいです。一方、誰が見ていようともいまいとも、道端に小さな敷物を敷いて、一人でも祈る姿の中にあつい信仰心を見いだしました。天候と信仰からでしょう、エジプト人はとても明るく、人懐っこいのです。

年齢や思想信条の違いを超えて学生時代に戻ったかのように談笑できる稲門会での集いは、全てのストレスを解消してくれます。稲門会こそ本当の天国です。

鈴木真吉(1971年商学)

臭い、汚い、ろくでもない……。2015年8月に赴任してから約1年で私が抱いたエジプトのイメージです。良いところは果物が安いことでしょうか。「イスラム国(IS)」によるテロがあり、飛行機の墜落があり、外国人誘拐事件がありと、治安状況に回復の兆しはなく、観光業は低迷したまま。

そんな日々の苦勞を分かち合えるエジプト稲門会。こんなエジプトに来たいという方がいれば、エジプト稲門会総出でおもてなしいたします！ピラミッドやツタンカーメンなどの歴史口

マンはありますが、期待値をグッと下げたから訪問されることをおすすめします。

内橋 徹(2006年政経)

エジプトに時折校歌が聞こえるようになってはや1年以上。にぎやかに杯が交わされる懇親会に参加するたびに、多くの先輩、後輩が当地で活躍していることをうれしく感じると同時に、身の引き締まる思いもしています。

「広く世界に活動す可き人格を養成せん」(大学教旨)。学生時代と同様、エジプト稲門会の集まりが散じるまでの時間はきっと一瞬。早稲田の理念を体現する方々と過ごせる貴重な時間を大切にしたいと考えています。

中村禎一郎(1999年文学)

エジプト考古学を志して早稲田大学に入学し、初めてこのエジプトへ来たのもサークル仲間とでした。「ナイルの水を飲む者はナイルへ帰る」ということわざがあり、意を決して川の水を飲んでから、はや20年。ことわざどおり、一昨年よりカイロに在住となりました。ピラミッドの麓で発掘ができるのは、早稲田大学というバックボーンのおかげです。エジプトの砂漠と紺碧の空とえんじ色の校旗、この美しさに共感してくれる仲間がいるエジプト稲門会に感謝です。

西坂朗子

(1997年一文、2001年文研修、06年文研博後)

エジプト稲門会について



早慶ゴルフ戦にて



透明度の高いダイビングスポット

エジプト稲門会は、2015年2月12日に休止から再始動した稲門会です。現在の会員数は40名弱。会員の皆さまは大使館、各政府機関、メディア、商社、金融、考古学関係など、早稲田人らしく実にさまざまな分野で活躍されています。2、3カ月に1回ほどのペースで懇親会を開き、毎回世代や職種の垣根を越えて盛り上がり、親睦を深めています。永遠の良きライバル、良き仲間として、エジプト三田会とも日々切磋琢磨しています。早慶ゴルフ戦では、圧倒的な強さでこれまで慶應に圧勝。真剣勝負をしても、懇親会では毎回両校の校歌・エールを合唱し合います。

11年、13年の政変の影響もあり、当地の在留邦人数は現在約1,000人と決して多くはありませんが、バイタリティー溢れるわれら「早稲田人」、今後もエジプト稲門会会員は増えていくものと確信しております。

藤原 惇(2009年商学)

会長メッセージ

めてまいります。
大久保貴由(1983年理工、85年工研博前)



白井克彦元総長を囲む会



世界遺産にもなっているピラミッド

世界三大文明の一つで悠久の歴史を持つ大国であり、地政学的にも極めて重要なエジプトは、変わらないもの「静」と変わり続けるもの「動」の対極する流れが、至極絶妙なバランスで同居する国と言えます。「静」は世界最長の大河で、悠々と続くナイルの流れと人々にもたらず恵み、ピラミッドに代表される数々の遺跡、年中降り注ぐ強烈な日差しと砂埃、街で昼夜問わず鳴り響くクラクション、人の熱気。「動」は、法治国家体制の激変、政治・経済・外交などにおける国の政策変化、スターバックスのCoffee of the dayの濃さ(毎日変化が著しい?)。

変わるもの、変わらないもの、そのいずれもが日本とは大きく異なり、日々生活をする上で戸惑いやいら立ちを感じることも決して少なくはありません。そんな当地において、「早稲田の仲間」というだけで不思議とほっと安心できる場所、それがエジプト稲門会です。その存在と皆さまの厚いご協力に感謝し、これからもエジプト早稲田人のオアシスたるべく、発展に鋭意努